

赤木雅子さんの法廷闘争が始まった

写真は大阪日日新聞 7 月 16 日 1 面掲載の「裁判を終えて裁判所の外で夫の遺影を掲げる赤木雅子さん」。15 日に元近畿財務局職員の赤木俊夫さん「自殺訴訟」の初弁論が大阪地裁で行われた。森友事件に詳しい相沢冬樹編集局長の標題記事を途中から紹介したい。写真下は自殺した赤木俊夫さんの手帳。改ざんが行われた 2017 年 3 月のページには予定がぎっしりと書き込まれていた。

裁判 2 時間前の正午、大阪地裁近くの代理人弁護士の事務所を訪れた雅子さんに、弁護士は 1 枚の小さなカードを示して告げた。「このカード、裁判で証拠に出しましょう」国家公務員倫理カード。亡き俊夫さんが常にスケジュール帳に挟んでいた。内容を見て雅子さんはドンと胸を突かれる思いだった。

- ・国民全体の奉仕者であることを自覚し、公正に職務を執行していますか。
- ・職務や地位を私的利益のために用いていませんか。
- ・国民の疑惑や不信を招くような行為をしていませんか。

「だって、みんながこの通りにしていたら夫は改ざんなんかしていないし、死ぬこともなかったはずじゃないですか」。カードがすり切れるほど肌身離さず、その言葉通り行動していた俊夫さんが改ざんを押しつけられ命を絶った。その不条理に胸がつまった。

午後 2 時、裁判が始まった。冒頭、雅子さんは中央の証言台に進み意見を述べた。「決済文書を書き換える」ことは犯罪です。安倍首相、麻生大臣、私は真実が知りたいです。最期の夫の顔は絶望で満ちあふれ、泣いているように見えました」

涙で声を詰まらせながら懸命に読み続ける。最後に「裁判官の皆さまにお願いがあります」と述べると、手元の書面に目を落としていた裁判長が真っすぐ雅子さんに視線を向けた。「ぜひとも夫が自ら命を絶った原因と経緯が明らかになるように訴訟を進めてください。よろしく願い致します」

裁判所を出た雅子さんに尋ねた。「きょうの意見陳述と記者会見、いかがでしたか」「言いたいことが言えたんで満足してます」「百点満点で点数を付けると何点くらい?」「そりゃ百点ですよ。すっきりしました。でも疲れた。これから帰って NHK のクローズアップ現代を見ます。一番長く取材してくれたんですごく楽しみです」

にこやかに言い残して去っていった。次の裁判は 10 月 14 日。国や佐川氏がどう反論してくるのか注目だ。



(2020 年 7 月 17 日)